

2026（令和8）年 4月号

赤れんが博物館NEWS

発行：舞鶴市立赤れんが博物館



令和7年度第4回 市民講座

日本の近代化とれんが⑦

監獄とれんが

2026年3月21日(土)



講師

水野 信太郎さん

舞鶴市立赤れんが博物館 顧問
北翔大学名誉教授 工学博士



↑監獄とれんが製造の展示

赤れんが博物館では、れんがの歴史を市民の皆さんと学ぶ「市民講座」を開講しています。令和7年度第4回は「監獄とれんが」について水野信太郎先生にお話しいただきました。

明治時代の監獄と「れんが」には意外な関係がありました。

明治政府にとって、欧米との不平等条約（治外法権）を撤廃することは大きな外交的課題でした。そのため、江戸時代の小伝馬町のような古い牢屋から、西洋式の近代的な監獄へと制度を整備する必要があったのです。

実は、当時の内務省直轄監獄である「^{しゅうちかん}集治監」の整備は、れんが製造と深く結びついていました。例えば東京の小菅集治監は、大蔵省が銀座用のれんがを造るために設けた工場を、窯ごと買い上げて監獄にしたものです。施設内にはホフマン式輪窯が備えられ、収容者に生業を教える職業訓練としてれんが造りが行われました。

日本の近代化を支えた赤れんがの背景には、国の威信をかけた監獄の近代化という知られざる歴史が隠されていたのです。

- 令和8年度予定 5月9日（土）日本の近代化とれんがシリーズ⑧「鉱山とれんが」
- 10月31日（土）日本の近代化とれんがシリーズ⑨「繊維とれんが」ご期待ください

昭和 100 年記念企画展

「煉瓦の記憶 — 昭和を生きた 舞鶴煉瓦の物語り」を開催中

舞鶴のシンボルといえば、明治期に建てられた重厚な「赤れんが倉庫群」を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、れんがの物語はそこで終わりません。「昭和100年」という節目の年に、当館では記念企画展「煉瓦の記憶—昭和を生きた舞鶴煉瓦の物語り」を開催中です。（3月28日～5月6日）

本展では建築の主流が鉄筋コンクリートへと移り変わる昭和の激動期に焦点を当て、軍備拡張期に舞鶴で建造された施設（防空砲台や火薬廠など）で使用された赤れんがや耐火・耐酸れんが等多様なれんが、姿を消した施設跡から出土したれんがを展示し、当時の施設やまちの様子を検証します。さらに、平成から令和へと続く、赤れんが保存と活用のまちづくりの軌跡も紹介しています。時代に翻弄されながらも舞鶴の地で生き続けた「れんが」たちが物語る歴史に触れに、ぜひ足をお運びください。

・会期 3月28日(土)～5月6日(水・祝)



昨年10月から今年3月まで放送されたNHKの朝ドラ「ばけばけ」では、明治維新後、職と収入を失った旧士族が貧困と新時代の間で懸命に生きる姿が描かれました。士族の救済のため「士族授産」政策がとられ、れんが製造業に従事したラストサムライたちもありました。

●東洋組・・・

1882(明治15)年に工部大技長となった宇都宮三郎(旧尾張藩士)が、西三河の旧藩士族の授産事業として、瓦製造の伝統を活かしたれんが生産を提案、同年年末に「東洋組」を設立しました。東洋組の西尾と刈谷の分局がれんが工場となり、猿島要塞(1884(同17)年竣工、横須賀市)などの陸軍施設を中心にれんがを納品しました。

●岸和田煉瓦・・・

1872(明治5)年、旧岸和田藩藩士の山岡尹方(やまおか ただかた)が士族授産のために旧藩の練兵場でれんが製造事業を始めました。1893(同26)年に岸和田煉瓦(株)となり、洋式建築や各種インフラ整備の需要に応え、「岸煉」のれんがは西日本に広く普及しました。

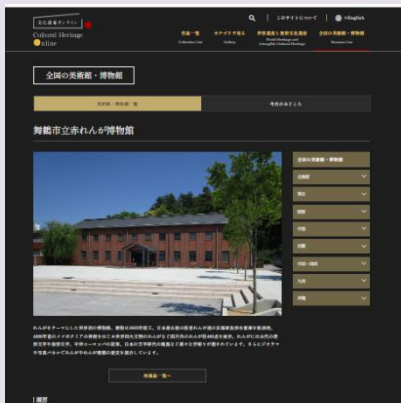


←東洋組のれんがの展示



→岸和田煉瓦のれんがの展示

当館所蔵の資料が「文化遺産オンライン」で公開されました



↑文化遺産オンライン内赤れんが博物館ページ

2026年2月末より当館が常設展示している資料の一部が、日本全国の文化遺産を網羅する文化庁のアーカイブサイト「文化遺産オンライン」でご覧いただけるようになりました。

貴重な歴史資料である世界各地のれんががデジタルアーカイブとしてより身近になります。なかなか展示室まで足を運べない方も、スマートフォンやパソコンからじっくりと当館のコレクションをお楽しみいただけます。

※今回の公開にあたっては、文化庁「Innovate MUSEUM 事業」を活用して実施した「京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業」により撮影したデータを使用しています。

前庭に新しいイラストマップが登場



→新しいイラストマップ

2月24日、当館前庭にある「れんがアーチ壁」に新しい案内マップを設置いたしました。このアーチに使用されているのは、1891(明治24)年に竣工した旧大阪麦酒会社(現アサヒビール株式会社)吹田村醸造所の貴重なれんがです。

今回設置したマップでは、昭和20年当時の舞鶴海軍の建造物配置と、現在も残っているれんが建物を重ね合わせて表示しています。前庭から東舞鶴港を眺めながら、往時の風景に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

3月に令和7年度4回目の市民講座が行われました。第一部は当館顧問の水野先生、第二部は「赤れんが博物館友の会」の濱本さんがれんが情報の提供を担当してくださってましたが、今回で濱本さんのお話のお話は終了となります。いつもていねいに作成された資料を配布していただき、濱本さんのお話が楽しみでした。長い間本当にありがとうございました。

さて、令和8年度の市民講座は年2回の開催になります。今年度も「日本の近代化とれんが」を訪ねてまいります。皆さまのご参加お待ちしております。